

■白山国立公園におけるコマクサ調査結果

平成 21 年度と 22 年度にコマクサ対策を検討するために実施した調査内容及び調査結果は、以下のとおり。

調査内容	調査結果
1. 移植情報（証言）の収集、確認	平成 4 年に寄せられた情報として登山愛好家の下記の証言があった。証言の真偽を確認し、正しいことを確認したため、生育地点の 1 つは持ち込まれて生育したコマクサである。 「乗鞍岳のコマクサを 1973 年（昭和 48 年）頃に持ち込み移植した。」
2. 既存文献資料によるコマクサ生育確認	記録のある 1822 年以降の白山の植物に関する主要な文献計 134 件を精査した結果、自生に関する記載なし。
3. DNA 解析（白山のコマクサと自然生育する 5 山域（図 1）及び市販のコマクサとの比較）	ITS 領域という部分で生育箇所を特定できることがわかり、その部分の DNA 配列について、白山のコマクサと全国で自然生育している 5 山域及び市販のコマクサとの比較をしたところ、乗鞍岳または市販のコマクサと一致したため、1. の証言が裏付けられた。 （白山生育地のうち 1 地点未解析であり、今年解析を実施。）
4. 白山に生育しているコマクサ個体数調査	全地点合計で約 5,900 個体、うち開花していたもの約 1,800 個体（平成 21 年度及び平成 22 年度の調査結果）。
5. 生育状況の経年変化（モニタリング調査）	生育地点の 1 つでは、1993 年は 109 個体、2001 年は 1,780 個体、2009 年は 4,929 個体と増加している。

以上の 1. ～ 3. の結果から、白山には過去にコマクサが存在せず、人為的に持ち込まれたものであると判断される。

図 1 分析を行った 5 山域

